

季刊

# 湘南自然誌

Vol.26

園児と自然に触れ合う中から  
生まれたコラム

**四季のコラム**

園児や地域の皆さんからの  
投稿写真を季節毎に掲載

**湘南発 みんなでつくる！  
生きもの図鑑**

地域の自然を  
知ろう！学ぼう！伝えよう！

ひらおかようちえん  
**アクションレポート**

元県立足柄ふれあいの村学芸員  
吉田文雄先生の教育コラム

**心が育つ幼児教育**

遊んで学ぶ、生きもののこと

**知育ゲーム**

**特集**

たての ひろし

絵本作家

**館野 鴻先生と**

**里山で遊んだら…**

館野流の自然との触れ合い方とは？  
命をテーマに絵本を描く館野 鴻先生を招いた観察会レポート

# 2022 夏

## 自然はみんなのワンダーランド!

# 四季のコラム

ほった よしのすけ  
堀田 佳之介 ●平岡幼稚園 園長

平岡幼稚園児と共に自然に触れ合う中から  
生まれた自然にまつわるコラムです。

### 毎年 海を越えてやってくる!? ウスバキトンボ



上/ウスバキトンボ捕獲の様子  
下左/マーキングの様子  
下右/マーキングしたウスバキトンボ

風に乗って飛翔する能力が高いウスバキトンボは、毎年、南方から海を越えてやってくると言われていました。卵～成虫まで1ヶ月程度と成長が早いので、世代交代を繰り返しながら日本列島を北上し、秋には北海道まで到達します。ただし、沖縄など温暖な地域を除くほとんどの地域では越冬ができず、死滅してしまうようです。

湘南地域では、7月ごろから徐々に個体数が増え始めます。そして夏から秋にかけて、いたるところで飛ぶ姿が見られるので、私たちが最も目にする機会の多いトンボではないかと思います。

そんな本種ですが、これまでどのように日本列島を移動しているかについては確実な証拠がほとんど得られていません。そこで、移動ルート进行调查するため、NHKの「ダーウィンが来た!」という番組が全国一斉マーキング調査を実施しています。マーキングをして放した個体が違う場所で再捕獲されれば、どこからどこまで移動したかの確実な証拠となるからです。

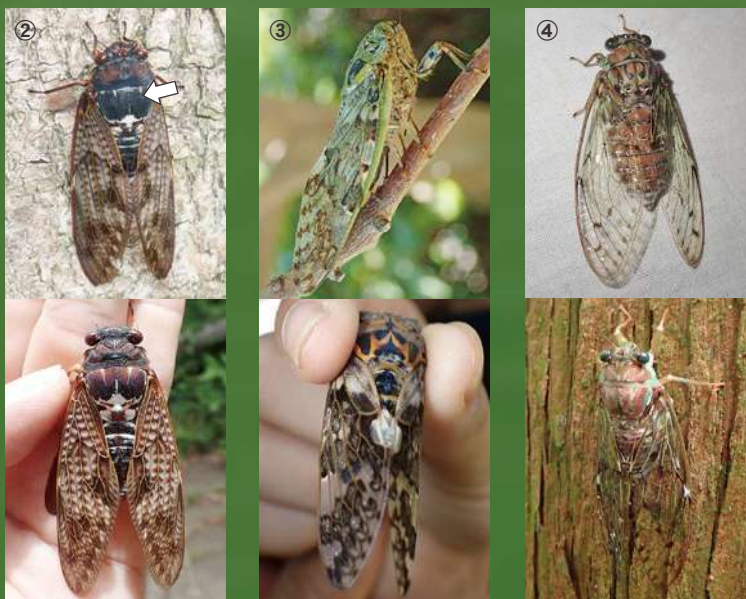
全国各地の協力者が、ウスバキトンボにマーキングをしてリリースしています。ぜひマークのあるウスバキトンボを探してみてください。もし見つけたら、本園の園児であれば、①写真を撮り、②逃がさずキープをして、平岡幼稚園まで至急ご連絡ください。園児以外の方は、番組HP(制作裏話→トンボ大調査協力者募集)をご参照の上、HPの連絡フォームにより報告をお願いします。

本種の全国的なマーキング調査は、初めての試みだと思います。どんな結果が得られるのか、とても楽しみです。

## 同じ種類でも違いがあるよ セミをよく観察してみよう！

平塚市で夏に見られるセミは全部で6種類（アブラゼミ、ミンミンゼミセミ、ヒグラシ、ニイニゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミ）。同じ種でも、よく見ると色や模様に変化があることを知っていますか？例えばアブラゼミは、中胸背（矢印参照）と呼ばれる部位の変異の有無によっていくつかの型に分けられています。湘南地域では、中胸背が黒っぽい「基本型」の他に、全体が赤っぽくなる「セアカ型」も現れます。ミンミンゼミも、基本型（中胸背が緑と黒色）、ミカド型（中胸背が緑色のみ）などがあり、稀に赤色型（体全体がレンガ色となる通称アカミンミン）も出現します。ニイニゼミも、緑色のタイプと橙色のタイプなどがありますし、ヒグラシも黒色の部分が欠ける個体が見られます。

今年のセミシーズンは終了してしまいましたが、来年はぜひ色や模様にも注目してセミをじっくり観察してみると面白いですよ。



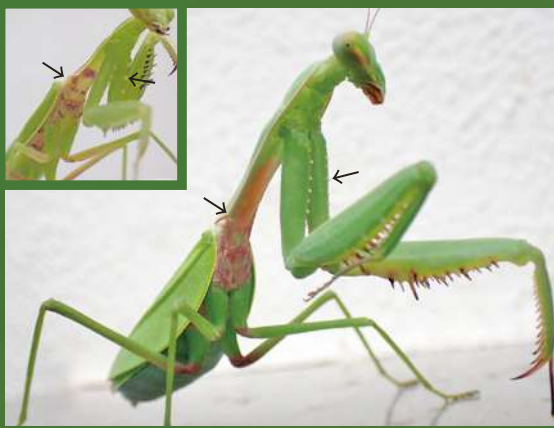
①ミンミンゼミ / 上は標準的な個体（左：黒色が多い個体、右：黒色が少ない個体）。下左は中胸背に黒色がないミカド型。下右は体のどこにも緑（青色）がない赤色型。  
 ②アブラゼミ / 上は標準的な個体。下は中胸背が赤っぽくなるセアカ型。  
 ③ニイニゼミ / 上が緑っぽい個体で、下がオレンジ色っぽい個体。最近下のような個体が多い。  
 ④ヒグラシ / 上は黒色が多い個体で、下は黒が少ない個体。

## とうとう園内で見つかってしまった… 外来種 ムネアカハラビロカマキリ

9月上旬のこと、園児を迎えに来た保護者より、園の駐車場にいたというカマキリが職員室に届きました。これが驚いたことに、最近平塚市西部に侵入したことが確認されていた外来種ムネアカハラビロカマキリでした。

本種は、中国から竹ぼうきなどに付着した卵しょうにより日本に侵入したようで、全国各地で定着してしまっています。県内では2006年に秦野市の葛葉緑地で見つかったのが最初とされています。本種が侵入すると、在来種のハラビロカマキリが駆逐されて姿を消してしまう、という事例が各地で報告されており、生態系に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

今のところ園内で見つかっているのはこの1個体だけです。発見場所が駐車場であったことから、車に付いて運ばれてきたのかもしれませんが、今後の動向に注視していきたいです。



園内で見つかったムネアカハラビロカマキリ♀。胸の裏側全体が赤っぽくなり、カマ（前脚）の付け根の突起が小さく、数も多い。  
 【参考】小窓の写真は在来種ハラビロカマキリ。胸の裏側は横縞のような模様があり、カマの付け根の突起は大きく数も少ない。



自然との繋がりを感じたい

私が死んだらその体を野原においておけば野生動物や昆虫、微生物なんかが食べてくれる。本来ならそうして人体も自然に戻っていくもの。しかし、現代人はそういうことをしません。その良し悪しは別として、私たちの暮らして、自然のサイクルからきれいに切り離されてしまっています。少しでも自然との繋がりを実感できないものか。私は絵本にも観察会にも、そんな思いを込めています。  
(館野鴻)

館野 鴻 Tateno Hiroshi ●絵本作家

1968年横浜市生まれ。幼少時から細密画家熊田千佳慕氏に師事。学生時代は北海道で過ごし、演劇や舞踏、音楽に没頭。その後、舞台美術などの仕事をしながら、音楽活動と昆虫採集を続ける。秦野市に転居後、生物調査の傍ら生物画の仕事を始め、2009年に絵本『しでむし』（偕成社）で絵本作家デビュー。2016年には『つちはんみょう』（偕成社）で小学館児童出版文化賞を受賞。他にも、『ぎふちょう』（偕成社、2009年）、『なつのはやしのいいにおい』（福音館書店、2014年）、『世界の美しき鳥の羽根』イラスト（誠文堂新光社、2015年）、『宮沢賢治の鳥』絵（岩崎書店、2017年）、『がろあむし』（偕成社、2020年）など多くの絵本やイラストを手掛け、2022年には短編物語集『ソロ沼のものがたり』（岩波書店、2022年）を上梓している。



絵本作家

たての ひろし

# 館野 鴻先生と 里山で遊んだら…

2022年8月3日、平塚市土屋。平岡幼稚園の有志が集まり、生きものの生態を描く絵本作家 館野 鴻先生を招いて、自然観察会を実施しました。まず始めに自著を朗読していただき、そのあと谷戸を歩いて生きもの観察。より多くの生きものに出会えるよう、ライトトラップも設置しました。

命をテーマに絵本を描く館野先生の観察会は、どんなものになったのでしょうか？  
(編集部)



上写真／館野先生による自著『しでむし』（偕成社）の朗読。ネズミなどの死体を糧にして子育てをするヨツボシモンシデムシは、動物の死体がないと種を存続することができない、誰かが死んでくれないと困る生きもの。そんな私たちの見えないところで繰り返される生きものの世界を描いた絵本です。

下写真左から／青リンゴのような甘い香りがするホシハラビロヘリカメムシの匂いを嗅がせて回る館野先生。お母さんの顔もほころぶ。／ヒグラシの神々しい羽化にも会う。／ライトトラップも設置し、光に集まる生きものを観察。／見つけた虫を館野先生へ見せに行く子どもたち。

「これ何の虫？」子どもたちが捕まえた虫を持っていくと、館野先生はそれぞれの虫について解説したあと、「これもらっていい？」と受け取り、空のペットボトルに詰めていく。そんな里山歩きを小一時間続け、すっかり辺りも暗くなると、今度は、何やら調理の準備を始める先生。「これはご飯に混ぜて炊くとすごく香ばしい山菜なんだよ」道中で摘んできた野草のウコギを沸き立つ鍋に入れる。「子どもにはちょっと苦いかな？食べてみる？」野草を茹で上げると、先生はなんとペットボトルに詰めた虫たちも鍋に投入！「泳がないと死んじゃうよ」「可哀想だけど…美味しい匂いがする」さまざまな反応を見せる子どもたち。その食い入るような視線に囲まれながら、先生は下茹でされて赤く色づいた虫たちを油で炒め、醤油を垂らす。なんとも香ばしい香りが漂ってくると、先生はたちまち美味しそうに食べ始めるのでした。



## 館野先生 命を食べる。

生きものは何かを食べないと生きていけない。人だって同じだ。それは生きていた命を奪うことに他ならない。

「虫を食べるということ」館野鴻  
「鬼ヶ島通信」第70+7号より



その虫も、われわれに共通する「命」をもつものだ。(中略)大人はそれをどのようにとらえ、どのように子どもに伝えたらよいのだろうか。

「命は描けるか」館野鴻  
「図書」2017年8月号より



館野先生の食べっぷりに魅せられたのか、やがて子どもたちの一人から、「おいらも食べたい！」の声があがる。そこで保護者に許可を取り、「食べたいどうぞ！」と子どもたちにもお皿を差し出すと…次々と虫に手を伸ばす子が現れ、結局、イナゴ、クモ、セミ、カメムシ、イモムシ…競うように子どもたちが平らげてしまいました。子どもたちが見せる自発的で積極的な行動に大人たちは驚くばかり。「カメムシ美味しかった！また捕まえていいね」「セミは俺も食べたいなあ。ひとりで全部食べたいの？じゃあ食レポお願いします！」子どもと館野先生の間でこんな会話が飛び交う。そして観察会の終わりには、「なぜ虫を食べて見せるのか？」「食べるということの意味は？」等々、この観察会へ込めた思いを語っていただきました。

## 観察会を終えて

なぜ虫を食べて見せるのか？

当たり前のように電気を使う生活からの、私なりのささやかな転換として、我が家では薪ストーブを導入しています。息子たちと薪割りをしてしていると、よくカミキリムシの幼虫が出てきます。ある日それがとても美味しい食材であると農家の方から伺い、勇気を出して食べてみました。私にとって観察の対象だった虫が食材に変わった瞬間です。その時生まれた、虫が私の血肉となったという一体感と、自分も自然界の資源循環の中にいるのだという感覚には大変感動したものです。

それ以来、さまざまな虫を食材にして味わってきましたが、時には今回のように、子どもたちを集めた観察会で私自身が虫を食べる姿を見せたりしています。しかし、みんなにも虫を食べさせようと押し付けるつもりでやっているわけではありません。

虫を殺して食べるという状況の中に子どもたちを置くといくつもの語り合いが生まれてきます。

「バッタが可哀想だよ！」

「じゃあ、牛や豚は可哀想じゃないの？」

「バッタは食べていいけどセミはダメ！」

「殺した虫と悪い虫がいるの。」

これらは私と子どもたちとの間で実際にあったやり取りです。もちろんこんな本質的な議論に答えなど出せません。ただこの経験が、子どもたちそれぞれの一生涯において、そのことについて考える定規になってくれたら……という願いを込めて虫を食べて見せている。単にウケ狙いでやっているわけではないのです。

館野 鴻

この語り合いの経験が、  
いつか命について考える  
定規になってくれたら……

### 編集部より

館野先生は、安全なもの・危険なものを分かったうえで、子どもたちの前で虫を食べています。安易に真似をしないようにしてください。

## Special Thanks

取材協力ありがとうございました  
永井圭・樂／永山祥彰・芳子・祥悟・朝陽／星野隼輝・恵子／穂積昊太・さち・隼斗・幸代／横田幸希・隼也・聖美／渡部陽斗・貴史・えりか・色映／堀田來佳／里山をよみがえらせる会（荒井啓三）

ビーチコーミング

はじめての湘南 訂正と追補



前号の特集に誤り等がありましたので、訂正及び補足をいたします。また、漂着物を精査したところ、新たな追加種がありましたので、併せてご紹介します。ご協力いただいた福田良昭先生（相模貝類研究談話会）と、岸一弘先生に感謝申し上げます。

解説 一寸木 肇

ちょっきはじめ / 1951年小田原市生まれ。幼少時より貝や甲殻類にのめり込む。元日本初等理科教育研究会理事長。現大井町教育委員会おおい自然園園長。元〔公財〕日本自然保護協会自然観察指導員講習会講師。

※和名は奥谷喬司編著（2017）『日本近海産貝類図鑑 第二版』によった。

訂正

以下の種名及び文章表現について訂正します。種名が訂正された貝類の解説は下記に差し替えます。

- P5, 25 「エガイ」→「ハナエガイ」
- P9, 67 「カリバガサ」→「キクザルの仲間（イチゴキクザル?）」
- P9, 72 「ヤシャブシの実」→「ハンノキ属の実」
- P10, 89 「ウミギク」→「チリボタン」
- P12 「自然度が高い砂浜」→「様々な発見を期待できる砂浜」
- P14, b 「ムシロガイ?」→「アワムシロガイ」

- P14, c 「ユウヒザクラガイ? or アコヤザクラガイ?」→「チヨノハナガイ」
- P14, d 「シイノミヨフパイ?の一部」→「ムギガイの一部」
- P14, f 「ヒメアサリ?」→「アサリ」
- P14, g 「レンジャクガイ?」→「オオシイノミガイ」
- P14, h 「ホタルガイ」→右から2番目は「ムシボタル」（その他はホタルガイ）
- P14, i 「エガイやフネガイの仲間」→「サザナミガイ」



25 ハナエガイ



67 キクザルの仲間 (イチゴキクザル?)



72 ハンノキ属の実



89 チリボタン



b アワムシロガイ



c チヨノハナガイ



d ムギガイの一部



f アサリ



g オオシイノミガイ



h ムシボタル



i サザナミガイ



25 ハナエガイ：殻の後半は褐色が強いので、本種とした。 67 キクザルの仲間：キクザルの仲間は、左殻または右殻で岩などに固着するため、左右の殻が不等形のもの、ほぼ等形のものがある。本種は左殻で固着するが、その右殻と思われる。 67 ハンノキ属の実：ヤシャブシの他にオオバヤシャブシの可能性もある。 89 チリボタン：岩礫性。殻の色彩は変化に富むが、赤褐色のものが多い。幅広い鋸状の刺を持つウミギクに比べ、チリボタンは左殻に小刺がまばらに生える。本個体は小さな刺の跡があるので、本種とした。 b アワムシロガイ：縫合下に暗色帯を持つことから、本種が適当と思われる。紀伊半島以南に分布するので、客土など何らかの原因で、茅ヶ崎から見つかったと考えられる。 c チヨノハナガイ：殻が薄く、殻頂がややとがっているため、本種とした。 d ムギガイの一部：模様が擦れているが、本種の下部だと同定できる。潮間帯～潮下帯の岩礁にすむ。 f アサリ：殻の後半が多少肩があること、強めの放射細肋があることから本種とした。 g オオシイノミガイ：本個体は摩耗しているが、薄質で本種の殻形を残している。 h ムシボタル：縫合下に褐色斑があることで、本種と同定される。 i サザナミガイ：殻が薄く半透明で、後端が開いていることで本種とした。水深5～50mに生息。【茅ヶ崎海岸の養浜事業】：茅ヶ崎海岸は色々な漂着物が見られて楽しい砂浜であるが、県の養浜事業（砂浜の浸食対策）により、相模ダムの堆積土砂が継続的に砂浜に投入され、海浜性動植物の生息・生育環境が悪化している。



## 補足

説明が不足していたもの、種名が確定したものを追記します。



1 カズラガイ (ナガカズラガイ)



17 ハマグリの仲間  
(小さい個体)



85 フクレユキミノガイ



k シロスソカケガイ



m クダマキガイの一部

P4, 1 この個体はナガカズラガイと同定される場合があり、ナガカズラガイは種内変異の一型と考えられているが、別種とする見解もある。  
※奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑 第二版による。

P5, 17 「ハマグリの仲間 (小さい個体)」は、「雑種?」と記したが、チョウセンハマグリの幼貝という見方もある。湘南海岸では、昔からチョウセンハマグリが生息し、幼貝の放流も行われている。また、近年外来種のシナハマグリの生貝を見ることもある。ちなみに、本個体殻頂部に見られる孔は、ツメタガイによって食害された跡。

P10, 85 「ミノガイの仲間」は、ミノガイの仲間の「フクレユキミノガイ」で確定された (殻が薄く、強く膨れるため)。

P14, k 「シロスソカケガイ?」は、「シロスソカケガイ」で確定された。

P14, m 「クダマキガイ?の一部」は、「クダマキガイの一部」で確定された。

## 追加

取材時に見つかった漂着物を改めて精査したところ、  
新たな種が含まれていたことが判明しました。



105 コタマガイ



106 ウスカラシオツガイ



107 エガイ



o ミタマキガイ



p ヒメカメノコアサリ



q オナジマイマイ



r ヒカリギセル



s マルタニシ幼貝

105 コタマガイ…ハマグリやバカガイに比べると、殻が厚くて膨らみが小さく、軟体部も少ない。50年程前に湘南地域の海岸でたくさん採取されたことがある。(平塚) 106 ウスカラシオツガイ…外国からの移入種。シオツガイに似るが、やや殻が薄く、殻形が個体によってやや不規則で殻後半が褐色となるものもある。漁網や海藻に付着している。(茅ヶ崎) 107 エガイ…潮間帯～水深 20mの岩礁に足糸で付着している。カリガネガイと違って後端がとがる。(25番のエガイがハナエガイに訂正されたため、本種を追加。ちなみに、種名は表記されていないが、P12, B1で子どもが持っている貝は本種。) (茅ヶ崎) o ミタマキガイ…深海性のベニグリと似るが、それに比べ小さめで、潮下帯下部 (水深 15～50m) に生息する。(平塚) p ヒメカメノコアサリ…殻はやや薄く、小さい。潮間帯下部から水深 20mの内湾の砂泥底に生息する。(平塚) q オナジマイマイ…東南アジア原産の外来種で、農作物に害を与えることでも知られる。大水の時に流れ出たものだろう。(平塚) r ヒカリギセル…湘南地域で最もよく見られるキセルガイの仲間で、陸生。大水の時に流れ出たのかもしれない。(平塚) s マルタニシ幼貝…一般的なタニシで、田んぼや水路に普通で、そこから流れ出たものだろう。卵胎生で小さな貝を産む。(平塚)  
※文末の括弧は発見場所

湘南発 みんなでつくる!

# 生きもの図鑑

2022年6月～8月版 夏

平岡幼稚園の園児・教職員と、地域の皆さんからの投稿写真を季節毎に掲載する、タイムリーな生きもの図鑑です。

【図鑑の見方：① 場所・② 年月・③ 氏名】

※ 対象地域は神奈川県です。  
※ 期間外の写真を掲載することもあります。  
※ この図鑑は編集部で作成しています。誤りは判明次第訂正します。  
※ 同定者名の記載のあるもの以外は編集部(堀田佳之介)が同定しており、性別や年齢は分かる範囲で付記しています。

## どなたでも投稿できます

写真と「撮影年月日」「撮影場所」「発見者」を添えて、下記にてお気軽にお送りください。  
種名が分からなくてもOKです。

送付先

投稿用メール QR コード  
ikimono@hiraoka-kg.com



過去の記録検索

みんなで作る生きもの図鑑 索引  
湘南自然誌 PDF 版



### アサマイテモンジ

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類
- ③ 堀田佳之介



### オオアオイトトンボ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 安田雅宗



### ハグロトンボ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：県 RDB 要注意種
- ③ 鶴田航己 現在は普通に見られる。



### ハグロトンボ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：県 RDB 要注意種
- ③ 原凛叶 現在は普通に見られる。



### ハグロトンボ幼虫

- ① 平塚市南金目 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：県 RDB 要注意種
- ③ 小松美結 現在は普通に見られる。



**ハグロトンボ♂**

- ① 伊勢原市小福葉 同定：—
- ② 2022年8月中旬 備考：県RDB 要注意種
- ③ 大森謙志 (現在は普通に見られる)



**ハグロトンボ♂**

- ① 平塚市南金目 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：県RDB 要注意種
- ③ 山本侑樹・壮真 (現在は普通に見られる)



**ホソミイトトンボ♀**

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB 情報不足
- ③ 松浦通 (現在は普通に見られる)



**アオモンイトトンボ♀**

- ① 平塚市南金目 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 山本侑樹・壮真



**アオモンイトトンボ**

- ① 平塚市片岡 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 大森謙志



**アオモンイトトンボ♀**

- ① 平塚市広川 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 横山大輔



**カトリヤンマ未熟個体**

- ① 平塚市北金目 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：県RDB 準絶滅危惧
- ③ 相澤永人



**カトリヤンマ♀**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月中旬 備考：県RDB 準絶滅危惧
- ③ 堀田来佳



**マルタンヤンマ羽化殻**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 猪俣柚乃



**マルタンヤンマ羽化殻**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 佐藤心穂



**マルタンヤンマ♂**

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 堀田来佳



**ヤブヤンマ羽化殻**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 諸泉恵太



**ヤブヤンマ幼虫**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 大森謙志



**ヤブヤンマ♀**

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 小松美結



**ギンヤンマ♂**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 後藤基



**オナガサナエ幼虫**

- ① 平塚市南金目 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 横田準也



**オニヤンマ幼虫**

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 横田準也



**オニヤンマ♂**

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 永山祥悟



**チョウトンボ♀**

- ① 大磯町生沢 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：県RDB 絶滅危惧IB 類
- ③ 堀田来佳



**ミヤマアカネ♀**

- ① 平塚市岡崎 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：県RDB 準絶滅危惧
- ③ 荒川暁



**コシアキトンボ♀**

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 松浦通



**コシアキトンボ♂**

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 小松美結



**コフキトンボ♀**

- ① 大磯町生沢 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：県RDB 要注意種
- ③ 堀田佳之介



**ショウジョウトンボ羽化殻**

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 桑原しおり



ショウジョウトンボ羽化殻

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 北村誠奈



ショウジョウトンボ♂

- ① 平塚市大原 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 松浦優佳



ショウジョウトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 荒川暁



ショウジョウトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 鈴木大尊



ショウジョウトンボ♀

- ① 平塚市西八幡 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 西村彩歩



ショウジョウトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 山口陽菜



ショウジョウトンボ

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 小松美結・稜亮



ウスバキトンボ♀

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 小松美結・稜亮



ウスバキトンボ

- ① 平塚市北金目 同定：—
- ② 2022年8月中旬 備考：—
- ③ 長谷川大洋



ハラビロトンボ♀

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 成澤諒汰



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 後藤基



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 佐藤心穂



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 佐藤航高



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 鈴木大尊



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 平野楓果



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 小泉詩



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 新山みあり



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 佐野眞碧子



ハラビロトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 沼田理玖



シオカロントンボ♀

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 後藤基



シオカロントンボ♀

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 中野圭



シオカロントンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 古賀壮典



シオカロントンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 田淵苺



シオカロントンボ♀

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 平野楓果



シオカラトンボ未熟♂

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 永山祥悟



シオカラトンボ♀

- ① 平塚市真田 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 大森謙志



シオカラトンボ

- ① 平塚市岡崎 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 海老澤顕寿



シオカラトンボ未熟♂

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 小松美結・稜亮



シオカラトンボ

- ① 平塚市豊田 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 井上瑠乃



シオカラトンボ♂

- ① 平塚市南金目 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 山本侑樹・壮貞



シオヤトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：県RDB 要注意種
- ③ 増田悠希



オオシオカラトンボ羽化殻

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 河野直太郎



オオシオカラトンボ羽化殻

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 川村菜緒



オオシオカラトンボ♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 志田美月



オオシオカラトンボ羽化殻

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 茂田みづほ



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 高橋茂



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 佐藤京



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 小沼彩葉



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 石川穂菜



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 村田善志



オオシオカラトンボ♀羽化

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 川上瑛太



オオシオカラトンボ未熟♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 平野啓



オオシオカラトンボ♀羽化

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 國井美音



オオシオカラトンボ♀羽化

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 家長映



オオシオカラトンボ♂羽化

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 恵藤結彩



オオシオカラトンボ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 廣井愛穂



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 武重文也



オオシオカラトンボ

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 横田幸希



オオシオカラトンボ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 小宮美鈴



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 長澤里桜



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 志田啓悟



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 石川暖



オオシオカラトンボ♂

- ① 山北町山北 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 渡部陽斗



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 甲紗綾



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 佐久間朗



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 中野圭



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 猪俣祐乃



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 梅村南穂



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 小山田三鶴



オオシオカラトンボ♂

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 瀬戸康太



オオシオカラトンボ♂

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 荒役助



コロギス幼虫

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 佐藤帆高



ハネナシコロギス♂

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 堀田来佳



ヤブキリ

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 田中颯



ヤブキリ♂

- ① 平塚市長持 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 石黒焯河



ヒガシキリギリス♀

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：県RDB要注意種
- ③ 小松美結



ヒメギス幼虫

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 金森彩葉



ヒメギス幼虫

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 北野あかり



ヒメギス(長翅型)

- ① 秦野市南矢名 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 安達翼



コバネヒメギス♂

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 小松美結



ヒサゴクサキリ♂幼虫

- ① 平塚市土屋 同定：荒居浩明
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ ヘイケボタル観察会



クサキリ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 佐藤帆高



シブイロカヤキリ♂幼虫

- ① 茅ヶ崎市芹沢 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 横田隼也



クビキリギス

- ① 平塚市土屋 同定：—
- ② 2022年6月上旬 備考：—
- ③ 岩本菜子



クビキリギス♀幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 長谷川大洋



ウスイロササキリ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 荒井心美



ヒメクダマキモドキ♀幼虫

- ① 平塚市岡崎 同定：—
- ② 2022年8月上旬 備考：—
- ③ 佐野拓生・龍生・陽向子



ヒメクダマキモドキ♀

- ① 平塚市広川 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 横山大輔



ツチイナゴ

- ① 秦野市羽根 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 小松美結・稜亮



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 河野直太郎



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 桑原しおり



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平塚市鎌 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 石川穂菜



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 佐藤心穂



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平塚市寺田縄 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 松浦遙



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平塚市寺田縄 同定：—
- ② 2022年6月中旬 備考：—
- ③ 片沼遼也



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 横田隼也



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年6月下旬 備考：—
- ③ 沼田理秋



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 高橋茂



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 中戸川航大



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月上旬 備考：—
- ③ 嶋津悠乃



ショウリョウバッタ♀幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 大谷琉太



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 小泉詩



ショウリョウバッタ幼虫

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年7月中旬 備考：—
- ③ 飯田杏那



ショウリョウバッタ♀

- ① 平塚市岡崎 同定：—
- ② 2022年7月下旬 備考：—
- ③ 佐野愛子



ショウリョウバッタ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 関口嘉人



ショウリョウバッタ♀

- ① 平岡幼稚園 同定：—
- ② 2022年8月下旬 備考：—
- ③ 深井蓮